

2018年度 前期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	藤田緑郎（非常勤講師）
顕彰科目名	相談援助演習Ⅲ6（通年）
<p>●授業運営において工夫されている点</p> <p>1. 一分間スピーチ</p> <p>授業の冒頭に、学生、教員が、この一週間にあったこと、最近興味をもっていること、感動した本や映画のことなどを、みんなの前でお話をする。質問は特にしない、聞きっぱなしです。最小限の進行は教員が担当する。</p> <p>この一分間スピーチのねらいは2つある。ひとつは、人前で話すことと人の話を聞くことの練習です。もうひとつは、これから始まる演習に参加し、発言していくためのフォーミングアップです。</p> <p>2. N式（野中式）事例検討会</p> <p>N式事例検討は、従来のハーバード方式の事例検討のように、詳細な事例シートを用いず、簡単な事例概要だけを配布して行う事例検討です。詳細な事例シートをまとめるのは、報告者にとって大きな負担です。参加者はシートを見るために下を向いたままで、発表者の顔も表情も見ません。検討する内容もシートに大きく影響されます。</p> <p>N式では、参加者の手掛かりは3、4行の事例概要とジェノグラムだけです。前を向いて、発表者とホワイトボードの記録を見ます。情報を得るためには自ら質問をするしかありません。質疑応答の活発さが検討の成否を決めます。したがって、参加者には質問する力、想像力を発揮しながらアセスメントしていく力が問われます。発表者には、多様な質問に答える力が求められ、知っていることと知らないことが分かり、利用者理解が進みます。そして、いかに利用者のことを知らなかったかを痛感します。</p> <p>ある程度、利用者のイメージが共有できたところで、発表者が具体的に何を検討したいかを提起します。ここから、話し易いようにグループに分かれディスカッションします。そして、検討内容を発表し、事例発表者と教員がそれぞれコメントし、終了します。報告する事例は、実習で関わった利用者であったり、学生のご家族だったりときまざまです。個人情報保護のため事例概要は原則回収しています。</p> <p>この事例検討の最大のねらいは、黙って下を向かないこと、前を向いて自分なりに検討の輪に入っていく参加の姿勢です。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えておられることなど</p> <p>後期も一分間スピーチは続けます。N式事例検討はまだ発表していない学生が事例発表を行います。事例検討が一巡したら、「現代の福祉を考える」というグループディスカッションを行う予定です。これは、身近なところで起こっている具体的な社会福祉の事象や問題を、学生が2人1組になって、取り上げ、まとめ、問題提起をし、みんなで検討していくというものです。</p>	